

名 称	令和3年度 第1回ほどがや市民活動センター評議会 議事録		
日 時	令和3年6月28日(月) 10:00~12:00		
場 所	ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース		
出席者	評議会委員	浅井 経子 委員 (八州学園大学 生涯学習学部 教授) 有元 典文 委員 (横浜国立大学 教育学部 教授) 小倉 敬子 委員 ((公財)かわさき市民活動センター 理事長) 近藤 博昭 委員 (横浜商工会議所西部支部 支部委員) 竹迫 和代 委員 (参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター) 畑尻 明 委員 (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 顧問)	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 地域振興課長 椎葉 秀幸 " 生涯学習支援係長 飯島 拓 " 生涯学習支援係 岩間 千恵子 " 生涯学習支援係 ナイーム モハメド モアズ " 生涯学習支援係 和田 喜代美	
	協働運営会議	代表 清水 蓬山	
	管理運営業務 受託者	理事	佐藤 洋志
	特定非営利活動法人 横浜市民アクト	ほどがや市民活動センター センター長	北川 有紀
	"	職員 吉弘 初枝	
	"	職員 小林 康夫	

議題	1 令和3年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について 2 アドバイスシート記入 3 その他 意見交換
資料	1 令和3年度 ほどがや市民活動センター 第1回評議会委員・関係者名簿 2 令和3年度 ほどがや市民活動センター 事業計画 4 ほどがや市民活動センター評議会会則 5 ほどがや市民活動センター協働運営会議会則・組織図

* 椎葉地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第8条に基づき、委員6名全員出席のため、本評議会の成立が確認された。

* 令和3年度第1回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

* 評議会会則第5条に基づき、満場一致で本評議会の議長に小倉委員を選出した。

また、議長からの選出により、浅井委員が副議長に任命された。

議題1：令和3年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について

北川センター長より、令和3年度事業計画について説明を行った。

【委員からの質問および意見と回答】

事業計画全体について

(質問) 事業は誰が分担してやる予定か。

(回答) 一番大きな課題と考えている。現在の体制を基に今後学生や人を育てることを含め進めていく。新しく担当となる人の特技や持ち味を大切にしながらやっていく。

(意見) カテゴリーの表記で例えば土を耕す～風を送るなど、分かりやすくていい。一昨年実施した「ほどがや会議」参加の団体は各々活発に活動しているが、もっと横の連携があると良い。アワーズはそういった団体の潤滑油として期待している。

・同じくカテゴリーの表記の「土・水・風」など農夫視線で良い。言葉は重要で今後は育てているのを意識する(葉を伸ばす・お互いが育ちあうなど)があっても良い。

・既に活動してきた団体に対しての講座が全くない。併せてこれまでであった事業や団体が生かされる事業がない。資料に目を通した時、事業として誰が企画して担当するのか顔が見えない。あくまでもビジョンとしか見えない。

将来の担い手へ(インターンシップ受入れ)

(質問) 「活動の余白づくり」についてもっと詳しく説明が欲しい。

(回答) 若い世代がアワーズに関わり自分達で何か作りたいなど希望があった時、そういった新しいアイデアや要望を受け入れる余裕のある環境にしておくことと考えている。

(質問) この事業に参加するのは個人や大学からの紹介か。どのような仕組みなのか。また学生たちの就職に結びついているのか。

(回答) NPO 法人アクションポート横浜の事業で横浜市内の大学から NPO 団体が学生たちをインターンシップとして受入れている。アワーズでは今年4年目となる。アワーズに来る学生たちの特徴は「まちづくり」に関心を持っている人が多く、NPO で実際に働くというよりライフキャリアとして間接的に人生の選択肢として捉えている様子。今年卒業した学生の中には横浜市役所に就職した人もいる。

(意見) 地域の課題と若い人の課題はギャップがあると感じている。若者が社会の課題に関心を持つことは良いことだが、アワーズとしては彼らの活動や考えを地域からグローバルに広げるきっかけとして捉え、若者を含めた全世代を見据えて地域課題に応えつつ地域をつなげる仕事をするのが役割であることを大切にしたい。

・まちおこしに関り 40 年になる。若者だけでなく熟年や高齢者との交流や保土ヶ谷の歴史などは若い人も知りたいのではと感じているし、どの様につなげようかと考えている。

地域デザインセミナー

(質問) これは区役所事業となっているが、アワーズとの協働なのか、委託か。

(回答) 委託事業ではない。区役所が発案し、アワーズでアドバイス等の協力をして企画、実務は区役所が主導しながらアワーズと協働で運営を行っている。

ほどガヤ防災塾 (動画制作)

(意見) 学生だけがやっているのかどうか、防災ネットワークなど防災に関しては以前から区内にはシステムがあり各情報がある。(既存の行政、町会、学校の備蓄などの情報を基にしているのか) 自助の為の防災なのか、対象は親子・高齢者なのかどうかで内容は変わる。

世代交代事業

(意見) 現在どこでも平均年齢 60 歳 70 歳代以上の団体が多く長年活動している。高齢世代の団体のことは団体が考えるし、彼らが最後までやって発展解消するのも良い。例えば 30 年前に立ち上げた団体のビジョンを現在の世代が引き継ぐのは無理があり、利害が一致しない。アナログ世代がデジタルを使いこなせず、合同で実施しても抵抗がある。

・活動によっては誰が交代しても継続が可能なものもあれば、理念をもって立ち上げた団体などは引き継ぐことが不可能な場合もある。

・若者が社会に参加することは大事なことだが、彼らは将来就職などで社会に出ていく。アワーズに関わることは彼らの人生の一時的な事として考え、現在行っている学生スタッフの様な仕組みを作りつなげることや、若者が参加しやすいサンタプロジェクトのようなプログラムが沢山ある事は大事だが、そうした若者の参加と世代交代はイコールではない。

・表示は「世代交代」でなく、「世代交流」や「若者支援」「バトタッチ事業」などが良いのでは。

組織基盤強化への支援

(意見) どの時期に、どの視点でやるかがポイント。かわさき市民活動センターでは独自に助成金の申請時期に対応している。団体の活動を見直す、もっと団体の足腰を鍛えたいなどの「組織基盤」を見直したい団体に絞り助成金を交付している。1 団体 30 万円ほどで毎年 10 団体に対応している。

オンライン化支援事業

(意見) かわさき市民活動センターでは CSR (企業の社会的責任) として企業と提携したり、企業の中の有志が作ったクラブに Zoom 会議のサポーターや機材を持ち込むスタッフを無料で依頼している。この様に地域の企業を巻き込むことを今後検討すると良い。

広報

(意見) 団体紹介の画像を作ったことはあるか。例えば 1 団体 2 分間、自分たちでアピールしたいところを考えて持ち込んでもらう、センターでプレゼンのようにしゃべってもらうなどホームページに画像をアップできるシステムを整えていくことも検討すると良い。

・自主事業の講座などの画像を撮っておいて後で映像を流すシステムも同様。録画した画像の中の個人情報切り離して編集し、一定期間配信する。この様に講座当日の参加者数は少なくし、当日の映像を配信して視聴してもらうオフラインとオンラインの組み合わせを行

う。コロナ禍でも市民活動団体はオンライン等で事業を工夫し再開している。アワーズとしても事業の周知を含め広報の中で各団体が行っている工夫を紹介していくと発想が浮かばない団体にアイデアを伝えることができるので検討して欲しい。

協働運営会議から

(報告) 本来は事業の報告を行うが、ここ1年半はコロナ禍もあり休止状態。コロナ前に今後の方向性の議論を行い、アワーズと協働で従来やってきた事業を世代の課題を含めながら新しい方向を目指していく予定。

(意見) 時期が時期なので、仕方がない。雪解けが来たら動き出していきたい。

その他

(意見) 若者の定義が必要。若者は大学生だけではないし20代～50代も若者ではないだろうか。また世代交代にこだわらなくても良いのでは。世代は交代でなく協働して宝石の原石の様な若者を生かして欲しい。

・各カテゴリーが図になると良い。それぞれの関連が見えてくる。風を送るに外部講師の部分があるが、これはアワーズの事業として記載するのには違和感がある。

・保土ヶ谷区の事業として住んでいる人達や今後の保土ヶ谷区の活性化に役立つ事業に結びつけることが大切。

・保土ヶ谷区にあるアワーズとして、昔からある歴史的な活動をベースにし大事にすることが基本、そこに新しい風を入れることはもちろん大事。毎年同じことを繰り返すことが良いのではないが、全てを外すことには違和感がある。要は今まで関係を積み上げた皆さんがアワーズから離れないようにしていきたい。

議題2：アドバイスシート記入